

# 機関リポジトリネットワークにおける著者及びコンテンツ識別子の諸機能に関する調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Uchijima, Hideki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00062604">https://doi.org/10.24517/00062604</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 機関リポジトリネットワークにおける著者及びコンテンツ識別子の諸機能に関する調査

Research Project

All ▼

## Project/Area Number

21906036

## Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists

## Allocation Type

Single-year Grants

## Research Field

教育学・教育社会学

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

内島 秀樹 Kanazawa University, 情報部, 職員

## Project Period (FY)

2009

## Project Status

Completed (Fiscal Year 2009)

## Budget Amount \*help

¥470,000 (Direct Cost: ¥470,000)

Fiscal Year 2009: ¥470,000 (Direct Cost: ¥470,000)

## Keywords

恒久識別子 / 著者識別子 / 機関リポジトリ

## Research Abstract

本研究では、ヨーロッパ及び我が国のオープンアクセス環境(OA)下における恒久識別子(Persistent Identifier)のあり方を探り、その適用可能性を調査するため、著者を同定・識別するためのメタデータ要素である著者識別子(Author Identifier=AI)の現状と適用可能性について検討した。ヨーロッパでは、オープンアクセス環境下で、機関リポジトリ(Institutional Repository)のコンテンツ(主に論文等のテキスト)を、インターネット上で一意に同定識別するために、執筆者を同定するメタデータ要素を検討・策定している。オランダでは、Groningen大学がSURFと協力して、DAI(Digital Author Identifier)を策定・導入してヨーロッパに本拠を持つOCLC PIACAがこれを

事業として取り込んだ。OCLC PICAはOCLCに吸収され、DAIのユニークキーの体系はOCLCが支援組織の一つであるISNI(International Standard Number Identifier)に発展している。ISNIは、現状では、ISOのドラフト(ISO DRAFT 27729)である(DAIの例:info : eu-repo/dai/nl/07432178)。イギリスでは、JISC助成によるNAME Projectが著者典拠の検討を行っているが、まだ実装レベルには到達していない。一方、ISIトムソンやCrossRefなどの出版関係団体を中心に、トムソンのWebKnowledgeに導入されているResearcherIDを識別子の1案とするORCID(Open Researcher & Contributor ID)プロジェクトがスタートしている。これにはリポジトリ関係者も参加しており今後の進展が期待されるが現状は検討中の進行プロジェクトである。いずれにしろ、有料・無料を問わず、学術論文等の著者を同定する著者典拠機能(狭義にはAI)は世界的な基盤整備の課題であることは間違いない。一方、我が国の研究者を網羅するIDは存在しておらず、研究者の数から既存のIDで網羅するのは困難である。既存のDBでは、国立情報学研究所が「科研の研究者番号に独自の番号を付加」して、研究者リソルバと呼ばれる研究者(典拠)DBの番号としているが、これを拡張して学術機関リポジトリによるオープンアクセスコンテンツの著者に適用するのが最も網羅的な効果が期待できる。しかし、科研の個人番号などを持たない機関のリポジトリを対象に想定すると、個別大学の業績DBの番号スキームを包含できることが望ましく、職員番号など独自番号(AI)と科研個人番号(AI)の代替性を番号体系に組み込むことが、上記リソルバのOA環境における同定機能の汎用性を確保することにつながると結論する。

## Report (1 results)

---

2009 Annual Research Report

## Research Products (1 results)

---

All 2009

All Presentation (1 results)

[Presentation] Before and After DRF Initiative : a cluster of institutional repository programs beyond the traditional role of the library

2009 ▾

URL: <http://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-21906036/>

Published: 2009-03-31 Modified: 2016-04-21